

アジャスト

来年度「抗がん剤ナビ」提供へ

支払査定迅速化に貢献

生損保会社に向けた医療情報分析や査定業務サポートソフトの開発を手掛けるアジャスト(東京都渋谷区、横溝宏昌社長)は、来年4月を目途に「抗がん剤ナビ」(システム)の提供を開始する。「抗がん剤治療」に関する給付金支払いが増加する中、支払査定部門の業務効率化に貢献するとともに、支払い漏れの防止につながる仕組みとして注目されており、すでに生保会社1社が導入を決めている。

がんは、長年、日本人の死因の1位を占めており、また、「生命保険協会、生命保険の動向2017年版」によると、17年度のがん保険の新契約件数は208万件で、保険種類別の構成比では13・4%。保有契約件数は2390万件で構成比は

を使って調査を行っている。

そこで同社は、保険会社からの要望も取り入れ、システム上で簡単に調べられる「抗がん剤ナビ」を開発した。「抗がん剤ナビ」では、被保険者の治療に使われた抗がん剤の「一般名」「成分名」「販売名」のいずれかを入力すると、「解剖治療化学分類法(ATC分類:WHOで定めた医薬品の分類)」と、「薬効分類(日本標準商品分類)」が一つの画面に同



「抗がん剤ナビ」の画面

時に表示される。また、別画面で薬剤添付文書の効能・効果(適応病名)が表示される。「薬価基準早見表」な

ら、抗がん剤(成分名)をキーワードに、「先進

除適用の可否について画面上で確認できる。さらに、「抗がん剤ナビ」から、抗がん剤(成分名)の保険会社へ提供して

おり好評だ。今後も、保

ど書籍の改訂が行われるのは年1回のため、国内新規承認薬の同書籍への収録には時間的な誤差が生じてしまう。「抗がん剤ナビ」では、薬価基準早見表に未掲載の国内新規承認薬も表示されるため、査定担当者、保険

医療ナビ」(注1)「患者申出療養ナビ」(注2)を検索することもできる。

同社では「がんの治療は日々進化しており、病院で抗がん剤治療という患者も増えている。すでに、がんの支払い可否判定を支援する『がんナビ』(病理学的診断名からICD-10コードを確認できるシステム)を多くの保険会社へ提供して

「注1」先進医療の技術名、技術の概要、医療機関名、地域などから検索できる。目まぐるしく変わる先進医療の改廃履歴も参照可能。
「注2」患者申出療養制度の「技術の概要」を検索できる。現在開発中(18年4月リリース予定)。